

令和元年度ノリ養殖概況

竹本浩之*1・林 浩志

養殖環境 漁期中の岡山市における降水量の推移を図1に示した。10, 11月は高気圧に覆われ晴れる日が多く、11月は平年よりかなり少なかった。12月は湿った空気や寒気の影響で曇りや雨の日が多く、平年より多かった。1月は冬型の気圧配置が長続きせず、気圧の谷や前線の影響で、平年より多かった。2, 3月は高気圧に覆われて晴れる日が多く、平年並であった。

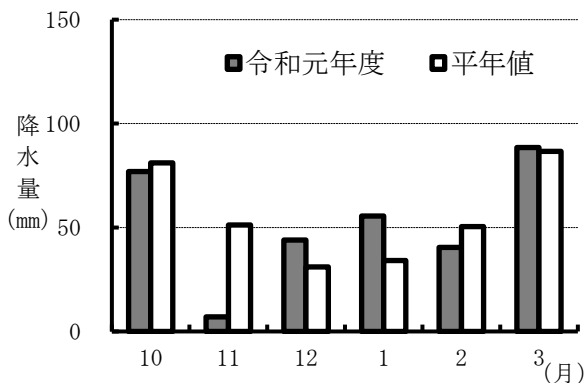


図1 令和元年度漁期月別降水量の推移
(岡山地方気象台)

牛窓沖水深 2m層における日平均水温の推移を図2に示した。水温は漁期当初から平年値を1℃以上上回る日が多く、12月下旬以降は、たびたび平年値を1.5~2℃近く上回った。12月上旬および3月上旬には過去最高値を更新する日があった。

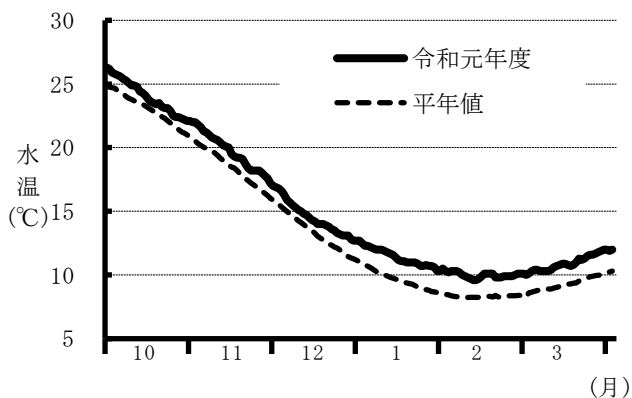


図2 令和元年度漁期牛窓沖水温の推移

漁期中のノリ養殖漁場における溶存態無機窒素濃度の推移を図3に示した。12月上旬にかけて6.9μMまで上昇したが、その後、*Chaetoceros*属等の小型珪藻が増加し、1月下旬には概ね2μMを下回った。

大型珪藻である*Coscinodiscus*属および*Eucampia*属の大規模な増殖は特に見られなかった。

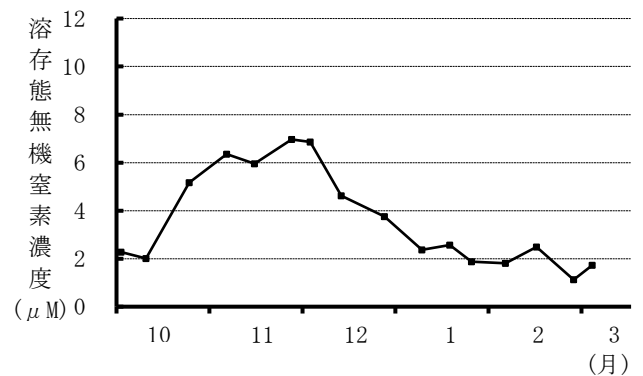


図3 令和元年度漁期溶存態無機窒素濃度の推移

養殖経過 漁期中のノリ養殖状況について、漁業者に聞き取り調査を行った。

10月24日に牛窓沖で育苗開始の目安となる23℃を下回った。育苗は、多くの漁場で26日前後の開始と遅めであったが、概ね順調に経過した。

本張りは、11月20日頃から順次開始された。水島周辺以西では芽流れや葉体の短縮化が見られた。

生産は、犬島周辺では12月上旬から開始された。一部では葉体の伸びが悪かったが、生産開始当初から品質は良好であった。水島周辺では12月以降も芽流れや葉体の短縮化に加え、葉体に激しい湾曲等の異常が観察された。また、顕微鏡下で幼葉、下芽に細胞の異常が観察されたことから、疑似しろぐされ症が発生したと考えられた。さらに、食害と思われる葉体の短縮化も見られたことから7経営体が生産不能となり、一度も生産することなく漁期を終えた。一方、笠岡周辺では12月中旬から生産が開始された。

1月上旬には小型珪藻(*Chaetoceros*属)の増殖により栄養塩濃度が低下したが、大型珪藻の大規模な増殖はなく、また間欠的に降雨もあったことから、漁期終

*1 現所属:岡山県農林水産部水産課

盤まで 2 μ M 前後で推移した。このため葉体の色調は、笠岡周辺では低下・回復を繰り返したものの、犬島周辺を中心に漁期を通じて概ね良好であった。笠岡周辺漁場では 3 月中旬まで、犬島周辺では 3 月下旬まで生産が継続された。水島周辺では 3 月中旬まで生産が継続されたが、病害等の影響により葉体の伸びが悪い状況のまま漁期を終えた。

生産結果 生産枚数は昨年度を下回る約 1.5 億枚（前年度比 85.3%）となった。平均単価は、全国的な不作と葉体の色調が漁期を通じて概ね良好であったことから、12.37 円（前年度差+0.58 円）と前年度を上回る高水準となった。生産金額は 18.8 億円（前年度比 89.5%）と前年度を下回った。